

いる例は、若干10例で、治験例も相当する。成人例の発症の機序は、単なる輪状膵による圧迫のみならず、輪状膵周囲の炎症、合併症等と関係あるのではないかと考えられる。治験例も十二指腸と膵頭部に強い炎症を認めた。

手術術式は、現在バイパス術・胃切除術（B-II法）が一般的だが、未だ確定されていない。合併症の有無、狭窄部と乳頭部との位置関係等、術後の合併症の問題をも考えて、選択されるべきである。

41. プロトン照射療法を施行した上部消化器癌の4例

渋谷 進, 高瀬 靖広, 近森 文夫
渡辺 宗章, 小林 幸雄, 岩崎 洋治
(筑波大学臨床医学系外科)

北川 俊夫 (同粒子線医学センター)

われわれは Stage IV 食道癌 2 例と手術不能胃癌 2 例に対しプロトン照射療法を施行したので、その治療経験について報告する。

食道癌症例の 1 例は心外膜への浸潤、他方は胸部大動脈への浸潤のため Stage IV と診断し、局所に対しプロトン照射を施行した。照射後の検査にて、狭窄の改善がみられ、内視鏡による生検では癌はみられなかった。後者では照射後手術を行い、摘出標本にて癌細胞はみられなかった。また、胃癌症例の 1 例は巨大ブラ、他方は 83 歳と高齢で特発性心筋症のため手術不能と診断し、局所に対しプロトン照射を施行したが、その後生検にて癌細胞は認められていない。以上 4 症例の治療経過と合併症について報告する。

42. 消化器癌に対する多剤併用療法の経験一切除不能の進行癌及び再発癌について

竹内 成子, 林 恒男, 田中 精一
上田 哲哉, 渡辺 和義, 今里 雅之
塚原 祐二, 金子 篤子, 広瀬はるみ
武雄 康悦 (中山記念病院)

消化器系の切除不能進行癌および再発癌に対して、シスプラチン、メソトレキセート、ビンクリスチンによる多剤併用療法を行った。固形癌化学療法直接効果判定基準により効果判定を行い、22 例中 4 例に PR を得、奏効率率は 18.1% であった。臨床的に効果ありと判定した例は 7 例で 31.8% であった。

癌性胸腹水に対して、5 例中 3 例に効果を認めた。この他判定基準は満たさないが、自覚症状、他覚的所見の改善がみられた症例があった。臨床的に多剤併用療法は効果があると考えられたので報告した。

43. 経脾的高カロリー輸液 (TSTPN) の実験的研究

門脇 淳, 門馬 公経, 田島 芳雄
(独協医科大学第 2 外科)

TPN を長期に施行する場合、カテーテル留置による合併症がある。この予防とより生理的な経路から TPN を行うことを目的として TSTPN の実験を行った。雑種成犬を用い、側腹壁皮下に脾を固定、創の固定を待ってこの脾を穿刺し、脾を経由して TPN を行った。5 頭に本法を行い、1 頭は 30 日、2 頭は 3 週間、1 頭は 2 週間、1 頭は 1 週間生存した。死亡原因は創周囲の化膿が腹腔内に波及したもので、30 日生存したものは屠殺し肝脾の組織学的検討を行った。脾は軽度の線維化がみられる他に著変なく、肝には軽度の胆汁うったいの所見がみられた。まだ少数例のため明確な結論には至らないが、十分な管理を行えば TSTPN は可能で、より長期生存の可能性も示唆された。

44. ルミノール結合微粒子を用いた食能の測定

次田 正, 鶴 純明, 四ノ宮成祥
六反田 亮 (防衛医科大学校・細菌学教室)
高崎 健, 小林誠一郎, 山本 雅一
羽生富士夫

(東京女子医科大学・消化器センター)

ルミノール結合微粒子 (ルミスフェア) を用いて担癌状態におけるマクロファージの食能および化学発光能を検討した。EL-4 担癌マウスの腹腔内渗出細胞では食能、化学発光能ともに有意の低下を示した。担癌患者末梢血単核球においては、炎症の有無に大きく影響され、手術直後の患者や感染を伴った場合はむしろ高値を示したが、再発や転移を伴う群ではほとんどの症例が低値を示した。患者の予後との関係はさらに検討を要するが、ルミノール結合微粒子を用いた末梢血単核球の食能化学発光能は術前患者、術後再発例などの感染防御能の指標になる可能性が示唆された。

45. 当院における人間ドックの現況

平野 宏, 木村 健, 宮川 晋爾
(宮川病院)

最近、各企業、個人でも成人病に関する関心が強く、その手段として人間ドック受診を奨励する傾向にある。当院では県内においては比較的はやい 8 年前より人間ドックを取り入れている。現在までの受診者総数は 1,104 名であり、今回はこのうち計 4 回以上受診しているもの 92 名を対象に糖尿病、高血圧症、高脂血症の罹患状況、上部・下部消化管、肝胆脾腎等実質臓器